



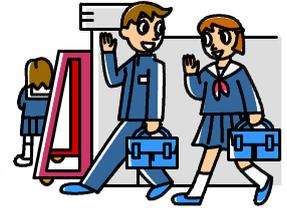
白河二中だより

NO. 40
2025. 2. 7
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

顔つき

元気に登校する子ども達と挨拶を交わしながら、保護者の皆さんが送迎する様子が目に入ってきます。

保護者の皆さんの中には、雪かきなどをしていって「お疲れ様です。」と声をかけてくださる方もいますし、すれ違う際に笑顔で会釈をしてくださる方もいます。ありがたいことだと、日々、感じています。



一方で、時々、「そんなに急がなくても」と心の中でつぶやくこともあります。子どもを車から降ろしたものの、自分の出勤時刻に間に合わないと思われたのか、「厳しい表情」で、スピードを上げながら運転される方がいるのです。時間を守ることの大切さを子ども達に伝える大人として、遅刻は許されないとされているのですが、スピード違反をしたり、事故を起こしたりすることは、さらに大きな問題になってしまいます。できれば、笑顔で送り出し、穏やかな表情で余裕をもって運転したいものです。

「厳しい表情」と書きましたが、以前、私の恩師が次のような話をしていたことを思い出しました。私自身も反省の毎日ではありますが、少しでも、恩師に近づきたいと思って生活しています。是非、お読みください。

幼いときの子どもの顔は天使のように汚れのないもので、一人一人どの顔も美しく見えます。中学生くらいまでは、顔の美しさは本人の努力というより、両親を通して天から与えられたものでしょう。十代の後半になったら、だんだんと自分の顔に責任をもたねばなりません。自分自身の気持ちでどうにでもなるということです。顔のつくりよりも、顔つきがその人の美しさを表現します。

いつも不平不満や文句ばかり言っていると顔がふくれて、目がつりあがったみにくい顔つきになっていきます。顔つきの美しさは、内側からできて後天的につくられるものでしょう。すがすがしい顔、やさしく慈悲に満ちた顔、明るく陽気な顔、どれも自分自身で作り上げなければなりませんね。

私は「明るいほほえみ」といつも心がけているのですが、そこは弱い人間です。泣きたいことも、怒りたいときも、むっつりしているときも多くあります。このせちがらい世の中に潤いや明るさを与える、「明るいほほえみ」を学校でも、家庭でもできないでいます。

なんで、今日は朝から気分が良くて心が明るくて、生き生きしているんだろう、と自分で考えてみると、朝、昇降口で会ったA君の笑いかけてきた顔だと気づくことがあります。

どんなに嫌なことがあっても、もやもやしていても笑顔を作ってみると、自分も、そして接する人も気分が良くなるんだな—と反省するこの頃です。

顔はその人の心を写す鏡です。顔のつくりよりも、顔つきを大切にしていきたいと思います。

細心の注意を

年が明けて、毎週のように、本校ではインフルエンザやコロナに数名の生徒がかかっている状態です。保健委員や担当教諭の呼びかけもあり、2時間目の休み時間と昼休みには、換気や、手洗い、うがいを呼びかけ、感染拡大の予防を継続していますので、ご家庭でも十分に気をつけていただければと思います。

3学期は3年生の受験はもちろん、毎週のように、各部の大会も開催されています。万全の状態に臨めるよう、睡眠時間を確保し、規則正しい生活で乗り切っていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。